

タイ研修報告書

環境共生学部環境共生学科食健康環境学専攻
柿本佳穂

今回のタイ研修での私の目標は、タイ語と英語の語学力向上とタイの文化を実際に体験して日本以外の国の文化を学ぶことだった。今回の研修プログラムでは、タイ語やタイの歴史や文化の講義、タイの国技であるムエタイの体験などが予定されており、私の目標が達成できると考え、参加した。

タイの歴史や文化を学ぶ講義では、文化や古くから伝わる言い伝えなどの座学、プアンマーライというタイの人々の生活に欠かせない、尊敬の念や幸運を祈る意味があり、様々な場面で使用される花輪づくり体験をした。日本とタイ間での文化の違いや専門的知識・技術を身につけることができ、貴重な体験ができたと感じた。



ムエタイ体験では、準備運動から実践までを体験した。基礎から丁寧に教えてくださり、反復練習の後、実践的な練習を行った。先生や KU の学生とともに近い距離で練習を行うことができ、楽しくムエタイを学ぶことができた。



タイ語の講義では、簡単な挨拶や日常会話、フルーツの名前、数字などをタイ語で言えるように練習を行った。スライドに先生の発音をメモし、繰り返し練習をした。KU の学生も一緒に練習してくれたので、実践的な練習ができ、楽しく短時間で覚えることができた。学習したタイ語は、講義以降の生活で買い物の際などに使用することができた。

研修では、日本ほど授業開始の時間や授業スタイルに厳しくないことや日本以上に先生と生徒との距離が近いことなどの文化の違いを感じた。また、研修中に KU の学生とコミュニケーションをとる機会が多くあったが、KU の学生と私の英語力に圧倒的な差を感じた。KU の学生は英語を当たり前話せて、日本語やフランス語、中国語を学習中だという人が多かったため、私もまず英語力を伸ばし、海外の方とより円滑なコミュニケーションがとれるように努力しようと思った。伝えたいことは、まずは話してみることで伝わるが多かったため、もう一度高校英語や単語など基本を復習するべきだと感じた。英語で話すことへの抵抗感は研修で減らすことができたので、日本でも困っている海外の方を見かけたら積極的に話しかけ、助けたいと思った。研修に行く前は、タイが初めてだった

ことや英語力に自信がなかったこともあり、タイで二週間弱過ごすことにすごく不安があった。しかし、KUの学生や先生、県立大学の仲間の温かさや明るさのおかげでチャレンジすることの大切さや面白さ、言語や文化・宗教が違って通じ合えることの喜びや感動を感じることができ、学生生活の中でもかなり有意義な時間を過ごすことができたと思う。今後、日本でも海外の方と交流したり、友達を作ったりする機会は多くあると思うので積極的に参加したいと思う。このような有意義な時間を過ごすことができた、研修の準備に関わってくださった先生方への感謝の気持ちも忘れず、今後の学生生活も頑張りたい。